

製品名: MLK1/2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13952**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MAP3K9/MAP3K10
別名	MAP3K9; MLK1; PRKE1; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 9; Mixed lineage kinase 1; MAP3K10; MLK2; MST; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 10; Mixed lineage kinase 2; Protein kinase MST
遺伝子 ID	4293/4294
SwissProt ID	P80192/Q02779
免疫原	抗血清はヒト MLK1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

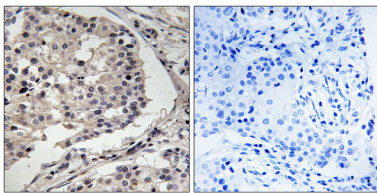
背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: ロイシンジッパードメインを介したホモ二量体形成は、自己リン酸化とそれに続く活性化に必要である。機能: JUN N 末端経路を活性化する。PTM: 活性化ループ内のセリンおよびスレオニン残基の自己リン酸化は、酵素活性化に関与する。Thr-312 が主要な自己リン酸化部位であると考えられる。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼ キナーゼ キナーゼ サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼ ドメインを含む。類似性: 1 つの SH3 ドメインを含む。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 結腸、乳房、食道起源の上皮腫瘍細胞株で発現。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: ロイシンジッパードメインを介したホモ二量体化は、自己リン酸化とそれに続く活性化に必要。機能: JUN N 末端経路を活性化します。PTM: 活性化ループ内のセリンおよびスレオニン残基の自己リン酸化は、酵素活性化に役割を果たします。Thr-312 が主要な自己リン酸化部位であると考えられます。類似性: MAP キナーゼ キナーゼ キナーゼ サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1 つの SH3 ドメインを含む。サブユニット: ホモ二量体。組織特異性: 結腸、乳房、食道起源の上皮腫瘍細胞株で発現。

研究分野

アクチンダイナミクスの制御; SAPK_JNK; 幹細胞経路; B 細胞抗原

画像データ



MLK1/2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。